

独自分析レポート 建設業主要各社の2020年3月期決算と 21年3月期予想から見る市場動向

【本件のポイント】

- ・6業種別主要上場企業各10社の2020年3月期通期の決算から見る建設市場動向をまとめた
- ・2020年3月期の決算は、6業種ともに好調な結果
- ・2021年3月期については、各業種ともに新型コロナウイルス感染症拡大による業績への影響が懸念されている

レポート初出：2020年6月30日（ヒューマンタッチ総研）

<総合工事業>

■8社が増収となるも収益性は低下傾向、新型コロナウイルス感染症の影響もあり21年3月期は6社が減収減益予想

売上高は8社が前期を上回り、10社合計の売上高は前期を2.1%上回っています（図表①）。大林組とフジタ（単体）は過去最高の売上高となりましたが、営業利益、経常利益は6社が前期割れ、純利益についても7社が前期割れとなっており、10社合計では営業利益が前期比2.5%減、経常利益が同3.4%減、純利益が同6.9%減であり、収益性は低下傾向です。

2021年3月期の業績予想を見ると、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を織り込んだ数値を発表した7社のうち6社は大幅な減収減益予想になっており、厳しい経営環境が予測されています（図表②）。

【図表①】総合工事業主要10社の2020年3月期（連結）の実績

企業名	2020年3月期								
	売上高 (百万円)	前年同期 増減率	営業利益 (百万円)	前年同期 増減率	経常利益 (百万円)	前年同期 増減率	純利益 (百万円)	前年同期 増減率	傾向
大林組	2,073,043	1.6%	152,871	-1.7%	159,005	-2.5%	113,093	-0.1%	増収減益
鹿島建設	2,010,751	1.8%	131,987	-7.5%	146,645	-10.0%	103,242	-6.0%	増収減益
大成建設	1,751,330	6.1%	167,755	9.4%	173,347	9.8%	122,087	8.5%	増収増益
清水建設	1,698,292	2.0%	133,894	3.2%	137,986	3.0%	98,977	-0.7%	増収減益
長谷工コーポレーション	846,029	-5.0%	85,925	-12.7%	85,253	-15.1%	59,851	-31.5%	減収減益
五洋建設	573,842	5.9%	33,161	13.4%	32,545	22.5%	23,352	23.6%	増収増益
戸田建設	518,683	1.6%	35,243	2.1%	38,272	2.1%	25,845	1.0%	増収増益
フジタ(単体)	520,802	2.2%	9,886	-54.9%	8,561	-61.1%	6,013	-60.7%	増収減益
前田建設工業	487,856	-0.9%	34,045	-5.3%	36,597	-4.6%	14,342	-40.1%	減収減益
三井住友建設	472,402	5.3%	24,765	-15.2%	23,884	-17.2%	15,550	-17.4%	増収減益
合計	10,953,030	2.1%	809,532	-2.5%	842,095	-3.4%	582,352	-6.9%	増収減益

出所：各社の2020年3月期決算短信より作成 *フジタについては非上場のため同社より取得した決算資料より作成

【図表②】総合工事業主要10社の2021年3月期（連結）の業績予想

企業名	2021年3月期の業績予想					
	売上高	前期比	営業利益	前期比	純利益	前期比
大林組			-			
鹿島建設	1,870,000	-7.0%	111,000	-15.9%	80,000	-22.5%
大成建設	1,450,000	-17.2%	81,000	-51.7%	56,000	-54.1%
清水建設			-			
長谷工コーポレーション	800,000	-5.4%	72,500	-15.6%	49,000	-18.1%
五洋建設	493,000	-14.1%	27,500	-17.1%	18,500	-20.8%
戸田建設	497,000	-4.2%	26,000	-26.2%	19,000	-26.5%
フジタ(単体)			-			
前田建設工業	662,000	35.7%	32,400	-4.8%	10,000	-30.3%
三井住友建設	400,000	-15.3%	18,000	-27.3%	10,000	-35.7%

※「-」は未定

出所：各社の2020年3月期決算短信より作成

<土木工事業>

■8社が増収増益となり好調な決算、21年3月期についても比較的落ち込みは小さい

売上高は9社が前年を上回り、8社が増収増益となっています(図表③)。10社合計の売上高は前期比5.0%増、営業利益は同2.8%増、経常利益は同2.5%増、純利益は同14.0%増となっており、土木工事業界は非常に好調な決算となっています。

2021年3月期の業績予想については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を織り込まない予想を発表した4社(NIPPO、日本道路、東洋建設、ピーエス三菱)では売上高が前期を上回る予想となっています(図表④)。影響を織り込み済みの数値を発表した4社(大豊建設、川田テクノロジー、飛鳥建設、東亜道路工業)は前期割れの売上高予想となっていますが、総合工事業ほどの落ち込みにはなっていません。

売上の中心となる公共投資による土木工事が堅調に推移すると見られていることから、2021年3月期についても土木工事業の落ち込みは、他業種に比べ比較的小さくなるのではないかと考えられます。

【図表③ 土木工事業主要10社の2020年3月期(連結)の実績】

企業名	2020年3月期								
	売上高 (百万円)	前年同期 増減率	営業利益 (百万円)	前年同期 増減率	経常利益 (百万円)	前年同期 増減率	純利益 (百万円)	前年同期 増減率	傾向
NIPPO	429,066	3.8%	36,227	-6.3%	38,226	-2.0%	23,594	-7.5%	増収減益
前田道路	237,812	6.3%	19,575	14.3%	19,877	12.7%	18,826	64.0%	増収増益
東亜建設工業	190,278	9.5%	7,957	99.9%	7,604	92.8%	5,007	63.0%	増収増益
東洋建設	174,805	6.7%	9,268	18.6%	9,168	13.6%	5,766	5.9%	増収増益
大豊建設	162,811	8.0%	8,511	-7.1%	8,578	-6.7%	6,647	8.2%	増収増益
日本道路	148,699	1.6%	7,515	-3.2%	7,853	-3.8%	6,792	49.3%	増収増益
飛鳥建設	134,859	4.7%	7,848	8.7%	7,382	5.2%	5,109	0.7%	増収増益
川田テクノロジー	127,048	7.3%	6,759	11.4%	8,543	0.0%	6,449	6.4%	増収増益
東亜道路工業	109,123	5.3%	4,753	30.1%	4,869	30.6%	4,116	-	増収増益
ピーエス三菱	105,744	-4.1%	4,881	-44.2%	4,897	-44.3%	3,214	-59.4%	減収減益
合計	1,820,245	5.0%	113,294	2.8%	116,997	2.5%	85,520	14.0%	増収増益

※「-」は前期実績がマイナス

出所：各社の2020年3月期決算短信より作成

【図表④ 土木工事業主要10社の2021年3月期(連結)の業績予想】

企業名	2021年3月期の業績予想					
	売上高	前期比	営業利益	前期比	純利益	前期比
NIPPO	440,000	2.5%	41,000	13.2%	28,000	18.7%
前田道路			-			
東亜建設工業			-			
東洋建設	175,000	0.1%	8,100	-12.6%	5,000	-13.3%
大豊建設	160,000	-1.7%	9,000	5.7%	6,000	-9.7%
日本道路	151,000	1.5%	8,000	6.5%	5,400	-20.5%
飛鳥建設	133,000	-1.4%	5,800	-26.1%	3,300	-35.4%
川田テクノロジー	115,000	-9.5%	3,500	-48.2%	2,500	-61.2%
東亜道路工業	105,000	-3.8%	4,500	-5.3%	3,000	-27.1%
ピーエス三菱	116,000	9.7%	4,200	-14.0%	2,800	-12.9%

※「-」は未定

出所：各社の2020年3月期決算短信より作成

<電気設備工事業>

■9社が増収、5社が増収増益となり好調な決算、2021年3月期については不透明要素が多い

売上高は9社が前年を上回り、5社が増収増益となっています（図表⑤）。10社合計の売上高は前期比11.2%増、営業利益は7.7%増、経常利益は6.4%増となっています。純利益は8.7%減となっていますが、これは協和エクシオ、ユアテック、中電工の3社で前期に特別損益として計上した経営統合に伴う負ののれん発生益によるものであり、売上高・収益性ともに電気工事業界は好調な決算であったと言えます。

2021年3月期の業績予想については8社が未定としており、新型コロナウイルス感染症拡大が業績に与える影響について不透明要素が多いと考えられています（図表⑥）。業績予想を発表した電気通信設備工事大手2社では、コムシスホールディングスは売上高が前期比0.2%減、営業利益同2.4%減、純利益同1.9%減、協和エクシオは売上高が同0.1%増、営業利益同2.9%増、純利益同35.2%増としており、比較的堅調に業績は推移すると予想しています。

【図表⑤ 電気設備工事業主要10社の2020年3月期（連結）の実績】

企業名	2020年3月期								
	売上高 (百万円)	前年同期 増減率	営業利益 (百万円)	前年同期 増減率	経常利益 (百万円)	前年同期 増減率	純利益 (百万円)	前年同期 増減率	傾向
関電工	616,143	9.3%	34,693	15.6%	35,565	15.5%	22,515	14.3%	増収増益
きんでん	585,905	12.4%	45,026	11.6%	46,727	10.0%	32,500	12.7%	増収増益
コムシスホールディングス	560,882	16.4%	38,953	10.5%	40,064	11.1%	25,994	-7.2%	増収減益
協和エクシオ	524,574	23.8%	31,100	-1.9%	30,669	-8.3%	15,603	-61.2%	増収減益
九電工	428,939	5.1%	36,022	-2.0%	38,643	-3.2%	26,245	-1.7%	増収減益
トーエネック	224,843	2.7%	13,307	20.7%	12,511	23.3%	9,314	39.6%	増収増益
ユアテック	202,760	-0.6%	6,762	-28.0%	7,338	-27.9%	4,470	-32.6%	減収減益
日本電設工業	198,244	8.6%	16,495	11.1%	17,680	11.7%	11,274	14.8%	増収増益
住友電設	172,910	10.1%	13,581	24.0%	14,201	22.8%	9,772	84.7%	増収増益
中電工	168,888	10.2%	8,333	28.5%	11,188	25.4%	4,795	-22.2%	増収減益
合計	3,684,088	11.2%	244,272	7.7%	254,586	6.4%	162,482	-8.7%	増収減益

出所：各社の2020年3月期決算短信より作成

【図表⑥ 電気設備工事業主要10社の2021年3月期（連結）の業績予想】

企業名	2021年3月期の業績予想					
	売上高	前期比	営業利益	前期比	純利益	前期比
関電工	-	-	-	-	-	-
きんでん	-	-	-	-	-	-
コムシスホールディングス	560,000	-0.2%	38,000	-2.4%	25,500	-1.9%
協和エクシオ	525,000	0.1%	32,000	2.9%	21,100	35.2%
九電工	-	-	-	-	-	-
トーエネック	-	-	-	-	-	-
ユアテック	-	-	-	-	-	-
日本電設工業	-	-	-	-	-	-
住友電設	-	-	-	-	-	-
中電工	-	-	-	-	-	-

※「-」は未定

出所：各社の2020年3月期決算短信より作成

<管工事業>

■6社が増収、5社が増収増益となり好調な決算、21年3月期については不透明要素が多い

売上高は6社が前年を上回り、5社が増収増益となっています（図表⑦）。10社合計の売上高は前期比2.2%増、営業利益は同12.1%増、経常利益は同9.6%増、純利益は同6.4%増となっており、管工事業界は好調な決算であったと言えます。2021年3月期の業績予想については8社が未定としており、新型コロナウイルス感染症拡大が業績に与える影響について不透明要素が多いと考えられています（図表⑧）。

業績予想を発表した三機工業は売上高が前期比 3.7%減、営業利益同 15.7%減、純利益同 14.2%減、日比谷総合設備は売上高が同 10.4%減、営業利益同 45.8%減、純利益同 57.6%減と減収減益の予想になっています。

【図表⑦ 管工事業主要 10 社の 2020 年 3 月期（連結）の実績】

企業名	2020年3月期								
	売上高 (百万円)	前年同期 増減率	営業利益 (百万円)	前年同期 増減率	経常利益 (百万円)	前年同期 増減率	純利益 (百万円)	前年同期 増減率	傾向
高砂熱学工業	320,893	0.3%	17,900	4.0%	19,286	5.0%	13,231	4.9%	増収増益
大気社	225,378	-0.01%	15,439	10.0%	15,991	6.0%	9,132	3.3%	減収増益
三機工業	207,684	-2.2%	10,674	0.3%	11,224	0.2%	7,576	-16.2%	減収減益
ダイダン	169,229	8.8%	9,063	18.3%	9,282	15.2%	6,399	17.1%	増収増益
新日本空調	120,106	-1.9%	6,409	65.0%	6,810	60.8%	4,603	48.7%	減収増益
朝日工業社	103,964	16.8%	3,661	10.7%	3,887	6.1%	2,319	-12.3%	増収減益
日比谷総合設備	75,890	8.4%	3,690	80.1%	4,239	32.0%	3,537	30.5%	増収増益
テクノ菱和	60,926	-9.6%	4,263	-5.6%	4,505	-7.2%	2,927	-3.7%	減収減益
大成温調	58,074	5.9%	1,879	-4.7%	2,132	-1.8%	1,477	161.0%	増収増益
ヤマト	51,464	11.2%	3,639	18.8%	3,846	17.5%	2,398	1.8%	増収増益
合計	1,393,608	2.2%	76,617	12.1%	81,202	9.6%	53,599	6.4%	増収増益

出所：各社の 2020 年 3 月期決算短信より作成

【図表⑧ 管工事業主要 10 社の 2021 年 3 月期（連結）の業績予想】

企業名	2021年3月期の業績予想					
	売上高	前期比	営業利益	前期比	純利益	前期比
高砂熱学工業	-	-	-	-	-	-
大気社	-	-	-	-	-	-
三機工業	200,000	-3.7%	9,000	-15.7%	6,500	-14.2%
ダイダン	-	-	-	-	-	-
新日本空調	-	-	-	-	-	-
朝日工業社	-	-	-	-	-	-
日比谷総合設備	68,000	-10.4%	2,000	-45.8%	1,500	-57.6%
テクノ菱和	-	-	-	-	-	-
大成温調	-	-	-	-	-	-
ヤマト	-	-	-	-	-	-

※「-」は未定

出所：各社の 2020 年 3 月期決算短信より作成

<プラント・エンジニアリング業>

■ 7 社が増収、6 社が増収増益となり好調な決算、21 年 3 月期については減収減益の予想

売上高は 7 社が前年を上回り、6 社が増収増益となっています（図表⑦）。10 社合計の売上高は前期比 5.8%減となっていますが、前期はマイナスであった営業利益、経常利益、純利益がいずれもプラスに転じており、決算は改善傾向にあると思われます。

2021 年 3 月期については、業績予想を発表した 7 社のうち 4 社が売上高は前期を上回るとしており、プラント・エンジニアリング業界では、新型コロナウイルス感染症の業績に与える影響はそれほど大きくないと見られているようです。

【図表⑨ プラント・エンジニアリング業主要 10 社の 2020 年 3 月期（連結）の実績】

企業名	2020年3月期								
	売上高 (百万円)	前年同期 増減率	営業利益 (百万円)	前年同期 増減率	経常利益 (百万円)	前年同期 増減率	純利益 (百万円)	前年同期 増減率	傾向
日揮	480,809	-22.4%	20,234	-13.0%	22,367	-30.8%	4,117	-82.8%	減収減益
千代田化工建設	385,925	12.9%	26,789	-	18,644	-	12,177	-	増収増益
栗田工業	264,807	2.9%	27,479	38.4%	26,691	31.7%	18,287	51.8%	増収増益
東洋エンジニアリング	219,094	-25.7%	1,890	-	2,467	-28.0%	1,664	-	減収増益
レイズネクスト	140,578	44.4%	10,040	30.7%	10,239	29.0%	12,258	134.6%	増収増益
タクマ	134,454	10.3%	9,600	-17.3%	10,300	-16.5%	7,445	-15.9%	増収減益
メタウォーター	128,723	9.7%	8,223	8.1%	8,132	6.7%	5,677	9.8%	増収増益
太平電業	119,459	18.1%	9,450	170.6%	9,580	138.7%	6,190	121.4%	増収増益
富士古河E&C	81,986	-6.7%	5,929	20.7%	5,807	19.7%	3,678	19.3%	減収増益
田辺工業	37,708	0.6%	2,623	7.3%	2,685	7.7%	1,880	22.8%	増収増益
合計	1,955,835	-5.8%	119,634	-	114,227	-	71,493	-	減収増益

※「-」は前期実績がマイナス

出所：各社の 2020 年 3 月期決算短信より作成

【図表⑩ プラント・エンジニアリング主要 10 社の 2021 年 3 月期（連結）の業績予想】

企業名	2021年3月期の業績予想					
	売上高	前期比	営業利益	前期比	純利益	前期比
日揮	480,000	-0.2%	20,000	-1.2%	8,000	94.3%
千代田化工建設	-	-	-	-	-	-
栗田工業	268,000	1.2%	22,500	-18.1%	16,350	-10.6%
東洋エンジニアリング	210,000	-4.2%	500	-73.5%	0	-100.0%
レイズネクスト	145,000	3.1%	9,400	-6.4%	6,300	-48.6%
タクマ	135,000	0.4%	10,800	12.5%	8,400	12.8%
メタウォーター	130,000	1.0%	9,000	9.4%	6,200	9.2%
太平電業	-	-	-	-	-	-
富士古河E&C	-	-	-	-	-	-
田辺工業	35,000	-7.2%	1,450	-44.7%	1,000	-46.8%

※「-」は未定

出所：各社の 2020 年 3 月期決算短信より作成

<住宅・不動産業>

■ 7 社が増収、4 社が増収増益となり堅調な決算、2021 年 3 月期については減収減益の予想

売上高は 7 社が前年を上回り、4 社が増収増益となっています（図表⑨）。10 社合計の売上高は前期比 1.2%増、営業利益は同 2.5%増、経常利益は同 2.2%増、純利益は同 2.0%増となっており、住宅・不動産業界は堅調な決算であったと言えます。

2021 年 3 月期の業績予想を発表した 6 社はすべて減収減益の予想になっています（図表⑩）。大和ハウス工業、三菱地所、住友不動産の 3 社では売上高をニケタの減収と予想しており、新型コロナウイルス感染症拡大が業績に与えるマイナスの影響は大きくなりそうです。

【図表⑪ 住宅・不動産業主要 10 社の 2020 年 3 月期（連結）の実績】

企業名	2020年3月期								
	売上高 (百万円)	前年同期 増減率	営業利益 (百万円)	前年同期 増減率	経常利益 (百万円)	前年同期 増減率	純利益 (百万円)	前年同期 増減率	傾向
大和ハウス工業	4,380,209	5.7%	381,114	2.4%	367,669	2.3%	233,603	-1.6%	増収減益
三井不動産	1,905,642	2.4%	280,617	7.0%	258,510	1.7%	183,972	9.1%	増収増益
大東建託	1,586,293	-0.3%	127,956	0.7%	133,028	0.6%	90,380	0.5%	減収増益
飯田グループホールディングス	1,402,019	4.2%	83,513	-14.0%	78,766	-16.3%	53,752	-17.9%	増収減益
三菱地所	1,302,196	3.1%	240,768	5.1%	219,572	6.3%	148,451	10.3%	増収増益
積水化学工業	1,129,254	-1.2%	87,768	-8.3%	86,996	-6.6%	58,931	-10.8%	減収減益
住友林業	1,104,094	-15.6%	51,377	4.3%	58,824	14.4%	27,853	-4.5%	減収減益
住友不動産	1,013,512	0.1%	234,332	6.8%	220,520	8.5%	140,997	8.4%	増収増益
野村不動産ホールディングス	676,495	1.2%	81,905	3.5%	73,077	5.4%	48,886	6.6%	増収増益
スターツコーポレーション	209,091	7.1%	23,912	4.8%	24,122	0.5%	15,059	-1.3%	増収減益
合計	14,708,805	1.2%	1,593,262	2.5%	1,521,084	2.2%	1,001,884	2.0%	増収増益

【図表⑫ 住宅・不動産業主要10社の2021年3月期(連結)の業績予想】

企業名	2021年3月期の業績予想					
	売上高	前期比	営業利益	前期比	純利益	前期比
大和ハウス工業	3,650,000	-16.7%	170,000	-55.4%	105,000	-55.1%
三井不動産	1,850,000	-2.9%	200,000	-28.7%	120,000	-34.8%
大東建託			-			
飯田グループホールディングス			-			
三菱地所	1,142,000	-12.3%	185,000	-23.2%	110,000	-25.9%
積水化学工業	1,107,400	-1.9%	70,000	-20.2%	43,500	-26.2%
住友林業			-			
住友不動産	880,000	-13.2%	204,000	-12.9%	130,000	-7.8%
野村不動産ホールディングス			-			
スターツコーポレーション	190,000	-9.1%	15,500	-35.2%	10,000	-33.6%

※「-」は未定

出所：各社の2020年3月期決算短信より作成

■まとめ

2020年3月期の決算は、景気回復を背景に民間設備投資が増加、政府の公共工事も堅調に推移したところに東京オリンピック・パラリンピックの特需も加わり6業種ともに好調な結果となりました。第4四半期(2020年1月～3月)における新型コロナウイルス感染症拡大が業績に与えたダメージは限定的なものであり、各社の決算には大きな影響を与えませんでした。

しかし、2021年3月期については新型コロナウイルス感染症拡大が業績に与えるマイナスの影響が各業種ともに懸念されており、不透明感が漂っています。

2021年3月期の業績予想を見ると、総合工事業では6社が大幅な減収減益を予想しています。総合工事業の業績は電気工事業や管工事業にも大きな影響を与えることから、建設業界全体が厳しい経営環境になるのではないかと危惧されます。社会インフラの老朽化や多発する自然災害への対策が必要なことから、政府の建設投資は堅調に推移すると予想されています。そのため、土木建設業は比較的堅調な業績予想になっていますが、新型コロナウイルス感染症拡大の状況によっては政府の建設投資が削減されることも懸念され予断を許さない状況だと言えます。

<このレポートに関するお問い合わせ>
 ヒューマンソシア株式会社 建設 HR 編集部
 E-mail: hrsouken@athuman.com